

# 令和3年度 篠井小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

## 1 教育目標（目指す児童像含む）

心身ともに健康で、自ら正しく判断でき、豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成	
健康で明るい子ども（きたえる）	よく考え 自ら学習する子ども（かんがえる）
すなおで親切な子ども（たすけあう）	根気よく働く子ども（がんばる）

## 2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

篠井小学校の歴史と伝統を重んじながら、全教職員の使命感と協働の精神を基盤として、次代を担う子どもたち一人一人が、未来社会において多様な人々と共生しながら社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓いていけるよう「心豊かでたくましく生きる力」を育む教育に取り組み、学校・家庭・地域が英知と熱意を結集し、一体となって「一人一人のよさが輝く活力あふれる楽しい学校」を目指す。

## 3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

### (1) 活力あふれる楽しい学校づくり

児童にとって、居がいのある「活力あふれる楽しい学校」を目指し、教職員が同僚性と協働性を発揮し、社会の変化に対応する教育活動を推進する。

### (2) 教職員の資質の向上

勤務時間を意識した働き方と業務改善を推進し、教職員の使命を自覚して自己啓発と研修の充実、専門性と指導力の向上に努める。

### (3) 特色ある教育課程の編成

地域の実態や児童の特性に即した創意工夫ある教育課程を編成し、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を推進する

### (4) 学力の向上

基礎・基本の確実な習得と思考力・判断力・表現力等を育むために、学びに向かう集団づくりと子どもが意欲的に取り組む授業づくり、児童の学習習慣の確立に努める。

### (5) 豊かな心の育成

「特別の教科 道徳」や体験活動を核に、あらゆる教育活動を通して、生きる基盤となる道徳性を養うとともに、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動を推進する。

### (6) 児童指導の充実

基本的な生活習慣の確立、自己有用感と規範意識の醸成、望ましい人間関係と社会性の育成を図る児童指導の充実に努める。

### (7) 健康・安全教育の充実

生涯にわたって健康で安全で活力ある生活を実現する力を育むために、自らの身を守るための行動力や判断力の育成、心身の健康や体力の増進、望ましい食習慣の確立に努める。

### (8) 地域との連携強化

家庭・地域・学校園内の学校及び各種団体、関係諸機関との連携を密にし、地域とともにある学校運営の充実・教育効果の向上・安全確保の充実に努める。

### [晃陽地域学校園教育ビジョン]

地域に根ざし、子どもが生き生きと活動する晃陽地域学校園  
—児童生徒の学習習慣の定着と学力向上を目指して—

## 4 教育課程編成の方針

(1) 関係法令，学習指導要領，栃木県教育振興基本計画，第2次宇都宮市学校教育推進計画等に基づき、各教科等の教育内容と相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列する。

(2) 教育活動全体を通じて、人間としての調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態及び児童の心身の発達の段階や特性を十分考慮しながら、家庭や地域との連携及び協働を深め、社会に開かれた教育課程を編成する。

(3) 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要

な思考力・判断力・表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことで、児童の生きる力を育む。

- (4) 小中一貫教育カリキュラムに基づき、家庭や晃陽地域学校園内の各学校との連携を図りながら義務教育9年間を見通した系統的、発展的な指導を通して、児童の自己実現に向けて基盤となる資質・能力を育む教育の実践に努める。
- (5) 前年度の教育課程の実施状況を評価・分析し、各分野における学校の全体計画等と関連付けながら教育課程を改善することで、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上に努め、カリキュラム・マネジメントの確立を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学 校 運 営 】

- 「一人一人のよさが輝く活力あふれる楽しい学校」づくりを目指した知・徳・体の調和のとれた力の育成と自己のよさを生かせる教育活動の推進

【 学 習 指 導 】

- ・ 確かな学力を身に付け、共に学び合う児童の育成  
 ー基礎・基本の確実な定着と思考力・判断力・表現力を育てるための指導の工夫を通してー

【 児 童 生 徒 指 導 】

- ・ 学校のきまりやマナーを守り、互いのよさを認め合い、思いやりの心を持って行動できる児童の育成

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・ 自己の健康・体力に関心を持ち、進んで体力の向上に励む児童の育成  
 ー運動の日常化を図るための教科体育と外遊びの工夫ー

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
	<p>A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】                      全体アンケート「児童は、授業中、話をしっかり聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」                      ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 基礎・基本の定着を目指す授業を行い、児童に分かる喜びや達成感を味わわせ、学習の意欲付けを図る。</p> <p>② <u>児童の興味・関心のある教材を用いたり、課題の設定の仕方や発問を工夫したりする。また、児童の学び合いにペア学習やグループ学習を意識的に取り入れていくことにより、児童が積極的に学習に取り組めるようにする。</u></p> <p>③ 授業力向上のための校内研修を実施する。</p>	B	<p>【達成状況】指標達成                      児童の肯定的回答：95.8%                      学校課題である『だれもが「わかる」「できる」つながりのある授業』の実践や、朝の学習のTT指導、全校体制での復習プリントの実施等により、児童の学習意欲を高め、既習事項を確認し、達成感を味わわせることができた。</p> <p>【次年度の方針】                      一人一人の意欲や達成感を大切にしながら学習課題や形態についての工夫を行い、分かる授業や個に応じた指導の充実を図る。</p>
	<p>A 2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】                      全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」                      ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 生活の中で、時と場に応じた言葉使いの指導を推進する。（ふわふわ言葉の推奨）</p> <p>② 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。</p> <p>③ 児童会活動や縦割り班による異学年交流を通して、相手の立場を考えて思いやる心を育む。</p>	B	<p>【達成状況】指標達成                      児童の肯定的回答：97.9%                      人権集会や交流活動をとおして、相手の立場を考えて生活することの大切さを指導するとともに、ふれあい班活動を推進することで、互いに思いやる心の醸成を図ることができた。</p> <p>【次年度の方針】                      学校生活において、適切な言葉遣いを指導するとともに、各種行事やふれあい班活動を通して思いやる心を育てていく。</p>

目 指 す 児 童 の 姿	<p>A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 全職員の共通理解に基づき、基本的な生活習慣の形成と社会規範及び責任を果たそうとする態度の育成に努め、「篠井小よい子の約束」を確認する。</p> <p>② <u>生活目標の達成を目指し、振り返りによる指導も徹底する。</u></p> <p>③ 授業、学校行事など毎日の生活の中で、時と場に応じた態度や行動の指導を行う。</p>	<p>【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：92.6%</p> <p>昨年度の児童の肯定回答88.0%を上回り、教職員、保護者、地域住民の肯定回答も90%以上を保っている。これは、児童の学年に応じて、それぞれの職員が適切に声をかけたり、生活目標の振り返りを積み重ねたりした結果であると考えられる。</p> <p>【次年度の方針】 学校園での共通課題や「篠井小のよい子の約束」を確認し、生活目標を意識した生活の習慣化を図る。</p>
	<p>A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 児童を主体とした年4回のあいさつ運動を実施する。<u>地域学校園においても、年2回、時期を合わせてあいさつ運動を展開する。振り返りカードの活用や表彰により実践意欲を高める。</u></p> <p>② あいさつの意味や大切さについて考えさせる機会を設定し、進んであいさつをしようとする態度を育てる。</p>	<p>【達成状況】指標達成 保護者の肯定回答：84.8%</p> <p>保護者の肯定回答は市平均とほぼ同じであり、教職員、地域住民、児童については94%以上となっている。これは、自主的にあいさつ運動に取り組む日を設定したり、あいさつについて継続的に指導を行ったりした結果であると考えられる。</p> <p>【次年度の方針】 校内での活動や学校園での取組や、学校・家庭・地域が一体となって実践できる取組を継続していく。</p>
	<p>A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。</p> <p>② 各種の活動において目標を設定し、さらに活動の振り返りを行うとともに、児童を称賛し、意欲の持続と高揚を図る。</p>	<p>【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：94.7%</p> <p>学習や学校行事の機会を捉え、目標をもって粘り強く取り組むことの重要性について重点を置いた指導を継続してきた。</p> <p>【次年度の方針】 学校生活において児童の主体的な活動を推進するとともに、学校行事等において目標等を設定し、振り返りを充実させる活動に努める。</p>
	<p>A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 警察署や駐在所、消防署の方と連携した防犯教室、避難訓練を実施し、防犯・防災意識を高め、適切な意思決定と行動選択ができるようにする。また、大規模自然災害時の引き渡し訓練等、保護者との連携体制の強化に努める。</p> <p>② 食育だより、保健だよりを毎月1回発行し、栄養面を含め食育や健康に対する家庭の意識の高揚を図る。</p>	<p>【達成状況】指標達成 保護者の肯定回答：93.5%</p> <p>不審者対応を想定した防犯教室や避難訓練を実施したことにより、児童の防犯・防災意識を高めることができた。また、食育だより、保健だよりを通して啓発を行うことで、保護者の食育や健康に関する意識を高めることができた。</p> <p>【次年度の方針】 防犯意識や防災意識の高まりが見られているので、今後も取組を継続し、緊急時に対応できる行動の定着を促す。健康的な生活習慣の確立に向けては、家庭科や保健の授業で、栄養士や養護教諭を活用した授業を行うなど、連携しながら全校体制で取り組んでいく。</p>

<p>A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。</p> <p>② 地域と協力してボランティア活動や地域の行事に参加するとともに、ボランティアに参加した児童を称賛し、意欲の持続と高揚を図る。</p>	<p>【達成状況】指標達成 教職員の肯定回答：100%</p> <p>学習や学校行事において、目標に向かって粘り強く取り組むことの重要性を事あるごとに指導してきた。A5における児童の肯定回答とほぼ合致する回答が得られており、児童が粘り強く取り組む様子を教職員が認めて関わる様子が見られている。</p> <p>【次年度の方針】 普段の生活や学校行事を通して、成就感や満足感を得る体験を積み重ね、夢や目標に向かって取り組もうとする意欲を育む。</p>
<p>A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 外国語活動(英語活動)を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。</p> <p>② 外国語活動(英語活動)に関する校内研修や授業を相互に見合う機会を充実して指導力の向上を図る。</p> <p>③ 学習内容を生かせるような体験的な集会活動や行事などを取り入れる。</p>	<p>【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：91.6%</p> <p>1人1台パソコン導入により、児童が英語の表現を進んで調べ、自分の思いを伝え合う姿が見られた。また、SDGsや道徳などの学習に関連して、外国の文化や暮らしについて興味をもつことができた。また、ALTと担任が連携して外国語活動(外国語科)を実施し、指導力の向上を図ることができた。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き校内研修を充実させるなど、指導力の向上を図り、児童がコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。</p>
<p>A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① かさまつ祭の中で、地域学習の成果を保護者や地域に発信する場を設け、宇都宮の良さに対する理解を深めさせる。</p> <p>② 現職教育に『宇都宮学』に関する研修を位置づけ、教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深める。</p> <p>③ 給食や校内掲示など、学校教育全体を通して地域学習の理解を深めさせる。</p>	<p>【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：95.8%</p> <p>様々な学年での校外学習の実施や3年生の社会科の学習等で宇都宮のよさを知り、児童の肯定回答は、市の平均を10%上回っている。教職員の肯定回答も86.7%と10.5%上昇した。保護者の肯定回答は57.1%と低くなっている。</p> <p>【次年度の方針】 各種たよりやHP等を通して取組内容をより積極的に保護者に示していくとともに、総合的な学習の時間における『宇都宮学』の内容の充実を図る。</p>
<p>A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、パソコンや図書室を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。</p> <p>② 各学年の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。</p> <p>③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。</p>	<p>【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：90.5%</p> <p>発達段階に応じて、1人1台端末を授業等で積極的に活用することができた。</p> <p>図書室において図書館司書との連携を図り各種イベントを企画し、児童の読書意欲の喚起を図ることができた。</p> <p>【次年度の方針】 保護者の肯定回答は80.9%と3.6ポイント下降している。授業においてICT機器や図書を積極的に活用し、活用状況を積極的に発信していくとともに、家庭学習における活用方法等の情報も発信していく。</p>

<p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても思いやりの心をもっている。」 ⇒教職員肯定的回答 80%以上</p>	<p>①学校行事等を通して、時と場に応じた言葉使いやふわふわ言葉の指導を推進する。</p> <p>② 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。</p> <p>③ 児童会活動や清掃における縦割り班活動を通して、相手の立場を考えて思いやる心を育む。</p>	<p>【達成状況】指標達成 教職員の肯定回答：100%</p> <p>学校行事や交流活動（高齢者との活動）において、他者への思いやりの心の醸成を図ってきた。計画の段階から、児童にどのような配慮が必要か考えさせ、実施の際には感謝の言葉を伝えるなどしてきた。</p> <p>【次年度の方針】 保護者の肯定回答が若干下降している。特に交流活動の取組内容を積極的に発信し、人権教育に関する取組も、学校行事と関連させながら進めていく。</p>
<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 総合的な学習の時間における環境教育やみやエコスクール等を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。</p> <p>② 環境教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して計画的に実施する。</p> <p>③ 東日本大震災をはじめとした過去の災害の具体事例から学ぶ教材を工夫し、防災教育を充実する。</p>	<p>【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：93.7%</p> <p>人権集会では、SDGsをテーマにふれあい班ごとに話し合いの場をもち、環境問題について関心を高めた。教職員の肯定回答は86.7%で5.7%上昇した。</p> <p>【次年度の方針】 5年生の総合的な学習の時間を中心に環境教育を充実させていく。また、生活の中で、節水節電などを呼び掛け、環境と調和しながら生きていくことの意識や態度の育成に努める。</p>
<p>B1 教職員は、安全に対する判断力と行動力、危険予知能力の育成に努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「自分は、登下校の時や、学校・家庭で安全に心がけて生活している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①警察署や駐在所、消防署の方と連携した防犯教室、避難訓練を実施し、防犯・防災意識を高め、適切な意思決定と行動選択ができるようにする。また、大規模自然災害時の引き渡し訓練等、保護者との連携体制の強化に努める。</p> <p>②各学年の児童の実態に応じた交通安全教室を実施し、交通安全の意識を高める。</p>	<p>【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：98.9%</p> <p>不審者対応を想定した防犯教室や、避難訓練を実施したことで、児童の防災意識・防犯意識を高めることができた。</p> <p>【次年度の方針】 より緊急時を意識した活動形態を工夫し、自ら考えて自分の身を守ることができる判断力の育成に努める。</p>
<p>目指す学校の A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。</p> <p>② 特別支援学級の児童はもとより、通常の学級においても、必要に応じて個別の支援計画を作成し、それに基づく合理的配慮を伴う指導に努める。</p>	<p>【達成状況】指標達成 教職員の肯定回答：100%</p> <p>全職員で特別な支援を必要とする児童の情報を共有し、適宜校内支援委員会を開催した。児童や保護者、各担任のニーズに合った支援を検討し、必要に応じてSCや関係諸機関と連携を図り支援を実施してきた。</p> <p>【次年度の方針】 通常の学級における特別支援教育を推進し、児童のニーズに応じた支援や適切な合理的配慮を実施していく。 児童、保護者への特別支援教育への理解を促すような取組を行うとより効果があると考えられる。</p>

<p>姿</p> <p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① <u>道徳の授業や学級活動において、生命尊重やいじめを題材にした授業を、全クラスが学期に1回実施する。</u> <u>また、学校生活全体を通して、自分の大切さとともに他の人の大切さを理解させる。</u></p> <p>② いじめゼロ強調月間（年2回）を設定し、いじめゼロ集会の開催や児童から募集した標語等の掲示を行い、行事・係活動等を通して、思いやりの心をもって助け合うことの大切さを理解させる。</p> <p>③ 異学年交流活動等の中で、複数の教職員が児童の様子を観察することを通して、いじめの早期発見と迅速な対応に努める。</p>	<p>【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：98.9%</p> <p>児童、教職員、保護者、地域住民の肯定回答は市平均とほぼ同じであった。これは、年4回のいじめアンケートで報告された事案を各担任がていねいに聞き取り、児童に寄り添って解決にあたったり、道徳の授業や学級活動で生命尊重やいじめを題材にした授業を実施し、思いやりの心をもつことの大切さを理解させたりした結果であると考えられる。</p> <p>【次年度の方針】 いじめ問題の未然防止・早期発見・早期解決と、迅速な対応を目指し、組織的な対応や保護者との連携を継続していく。</p>
<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① <u>児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。</u></p> <p>② 教育相談、アンケート、Q-U調査等の結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体での情報共有を図る。</p>	<p>【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：98.9%</p> <p>日々の生活の中で児童のよさを称賛したり、互いに認め合う場を設定したりすることが、児童の自尊感情や自己肯定感を高めることに繋がった。</p> <p>【次年度の方針】 学校全体で連携を取りながら、引き続き、児童の心に寄り添った指導を行っていく。また、保護者との関わりを常に心がける</p>
<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。</p> <p>② 特別支援学級の児童はもとより、通常の学級においても、必要に応じて個別の支援計画を作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。</p>	<p>【達成状況】指標達成 教職員の肯定回答：100%</p> <p>外国人児童生徒の割合は低いが、一人一人の実態に応じた取組を行うとともに、互いを認め合うことを大切にされた学級経営を行ってきた。</p> <p>【次年度の方針】 必要に応じて専門的なスタッフと連携し、個別の支援計画に基づいて系統的・計画的で組織的な支援体制作りを継続して取り組む。学校園で連携し、支援の必要な児童生徒の9年間を見通した継続的支援を行えるようにする。</p>
<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 創意ある活動の時間を教育課程に位置付け、教育活動にゆとりと広がりを持たせるようにする。</p> <p>② 学校行事や縦割り班活動等は、ねらいを明確にした計画や指導の工夫に努め、児童が主体的かつ生き生きと活動できるようにする。</p>	<p>【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：95.8%</p> <p>ふれあい班でのなかよしタイムなど日常的に異学年との交流が行われ、自己有用感の向上が図られた。</p> <p>【次年度の方針】 児童の中には少数であると思うが、悩みや戸惑いを感じている児童がいると思われる。教育活動全体にゆとりを持たせるとともに、一人一人にあった取組と時間を設定することで、さらに自己有用感の向上を目指していく。</p>

<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① <u>基礎・基本を重視し、自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等の能力を育成するために、学習内容に応じた学習形態の工夫や教材・教具の工夫を図り、個に応じた学習指導を充実させていく。</u></p> <p>② 学習内容のまとめ方の工夫や児童による学習の振り返りにより、学習内容の確認と児童の学習状況をつかむことで適切な指導・支援に生かしていく。</p>	<p>【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：97.9%</p> <p>宇都宮モデルを意識した授業により、基礎・基本の定着を丁寧に指導した。また、デジタル端末やICT機器、教材を効果的に利用することで、学力の向上を図ってきた。また、基礎・基本のさらなる充実に努め、TTでの授業や朝の学習に取り組むことで個に応じた指導の充実を図った。</p> <p>【次年度の方針】 さらなる指導力の向上に努め、児童の授業に向かう積極的な姿勢を強化するとともに、一人一人に配慮したきめ細かな指導の充実に努める。</p>
<p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 教員と専門性を有するスタッフとの間で、それぞれの役割を明確にし、連携・分担を適切に行い、学校の教育力が向上するようなコミュニケーションに努める。</p>	<p>【達成状況】指標達成 教職員の肯定回答：100%</p> <p>様々な業務を担うスタッフが充実し、それぞれの役割分担を明確にしたことで、教員が児童指導や学習指導に注力することができ、学校全体の教育力が向上した。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、打合せや会議を活用し、情報を共有しながら組織として業務に取り組めるよう、協力体制の充実を図る。</p>
<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識するとともに、校務分掌の見直しや人員の配置を工夫し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。</p> <p>② 専門性を生かした教育活動を充実させ、「チームとしての学校」を推進し、学校内外の多様な人材が能力を発揮し、それぞれの専門性を活かした活動を展開する。</p> <p>③ 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。</p>	<p>【達成状況】指標達成 教職員の肯定回答：100%</p> <p>研修の集約や勤務時間を意識した会議のもち方を工夫するとともに、各教員が専門性を活かした活動の展開を実践することができた。</p> <p>【次年度の方針】 一人一人の意識改革を推進するとともに、諸教育活動の見直しや、校務分掌の見直し・複数配置等を行うことで、今以上に児童への指導の時間を確保することに努める。</p>
<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 学習習慣確立のために晃陽地域学校園として設定した「あいさつ・返事・姿勢」について、小中9年間継続指導を行う。</p> <p>② 6年生の中学校訪問の機会をとらえて小中交流活動を行う。</p> <p>③ 学校だよりや学校園だよりを活用し、取組の内容を、積極的に発信するとともに、地域や家庭においても協力してもらえるように啓発する。</p>	<p>【達成状況】指標達成 保護者の肯定回答：81.6%</p> <p>各種たよりを通して学校園での取組を発信している。コロナ禍での教育活動に制限はあったが、中学校と連携を図り、中1ギャップの解消に取り組んだ。</p> <p>【次年度の方針】 学校園での取組を積極的に発信するとともに、あいさつ運動などでは、機会をとらえて地域や家庭への協力を呼びかける。</p>

<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒地域住民の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 地域協議会各部会活動と連携し、学校運営の充実を図る。</p> <p>② 街の先生（学校ボランティア）の活用やふれあい活動の推進など、地域と連携した教育を積極的に実践する。</p> <p>③ 地域内の篠井冒険活動センターや篠井保育園と連携した交流活動の充実を図り、様々な体験学習を実施する。</p>	<p>【達成状況】指標達成 地域住民の肯定回答：100%</p> <p>地域協議会の協力のもと、地域の団体と連携した「交流学習」や「みどり活動」及び「しのいクリーン作戦（清掃活動）」などを実践し、特色ある教育活動を推進することができた。</p> <p>【次年度の方針】 今後も、地域の団体の協力を仰ぎ、児童の学習内容との連携を図りながら、人・自然・地域とのかかわりを通じた活動の充実に努める。</p>
<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 地域協議会各部会活動と連携し、学校運営の充実を図る。</p> <p>② 街の先生（学校ボランティア）の活用やふれあい活動の推進など、地域と連携した教育を積極的に実践する。</p> <p>③ 出前授業や民間企業と連携した活動を年計に位置付ける。</p> <p>④ 授業参観、フリー参観及び学校行事を活用して学校の取組を披露することで、学校・家庭・地域が一体となって児童を育てる雰囲気醸成する。</p>	<p>【達成状況】指標達成 保護者の肯定回答：88.6%</p> <p>指標は達成し、ふれあい文化教室や租税教室等の出前授業、地域のりんご園への校外学習など、各教科と関連した取組を実施し、保護者への周知を行った。しかし、保護者の肯定回答は昨年度より約10%低下した。</p> <p>【次年度の方針】 授業参観やフリー参観、学級懇談に関して、今年度は回数が減少したため、以前の状況に戻していく。保護者との情報交換を密に行うとともに、たよりやHPでの情報発信を継続していく。</p>
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等のチェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。</p> <p>② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。</p> <p>③ 熱中症予防対策、感染症予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。</p>	<p>【達成状況】指標達成 保護者の肯定回答：88.9%</p> <p>安全点検に基づき、危険箇所の修繕を迅速に進めるとともに、各種マニュアルの整備や訓練を実施し、緊急の事態に備えることができた。感染症や熱中症予防対策は、メールや各種たより等で早めに保護者に周知し協力を依頼した。</p> <p>【次年度の方針】 今後も不測の事態に対応できるように体制を整え、取組に関して積極的に保護者への周知を行う。</p>
<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。</p> <p>② 各学年の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努めるとともに授業において学校図書館司書の積極的な活用を図る。</p> <p>③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。</p>	<p>【達成状況】指標達成 保護者の肯定回答：80.9%</p> <p>1人1台端末の積極的な活用によって情報手段に親しむことができた。</p> <p>また、夏休み中の図書室の開館や授業に合わせて市の図書館からの貸し出しなどを行うことで児童の読書への関心を高めた。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、ICT機器・読書に関して、児童の意欲を喚起する取組を継続して実施するとともに、環境の充実に努める。</p> <p>情報リテラシーを高め、情報モラルに関しても児童・保護者・教職員ともに高めていくよう取り組む。</p>

本校の特色・課題等	<p>B2 心の交流を図り、豊かな人間性の育成を推進している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「私は、『みどり活動（農園活動等）』『ふれあい班活動（なかよタイムでの遊び等）』に対して積極的に取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① みどり活動の積極的推進に努め、自然への理解を深め、自然愛護の心や態度の育成を図るとともに、みどり・農園活動を通して、勤労・生産・収穫の喜びや望ましい人間関係を育成する。</p> <p>② 縦割り班（ふれあい班）活動を推進するとともに、他の活動にも縦割り班の体制を取り入れることにより、心の交流を図り、心豊かな人間関係を育成する。</p>	<p>【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：100%</p> <p>全校生でのみどり活動に加え、縦割り班活動の充実や委員会活動の工夫により、児童の人間関係の育成を図ってきた。</p> <p>【次年度の方針】 みどり活動においては、今年度の栽培の方針を継続し、今後も縦割り班で活動に取り組みながら特色ある教育活動を推進していく。</p>
-----------	--	---	---

### 〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

全ての指標において数値目標を達成し、全体的に肯定的な回答の割合が多い結果となった。特に教職員や児童の肯定回答の割合が高く、今年度の制限の多い学校生活の中でも、教職員が工夫し協力し合って教育活動を行い、児童が主体的に学習や活動に取り組んだ結果が表れていると思われる。また、昨年度は、あまり実施することができなかった地域団体との交流活動だが、今年度は全学年で実施することができた。地域協議会の会議でその様子を伝えたり、地域協議会の委員による参観の機会をもったりすることができ、学校の様子をより理解してもらうことで、地域住民からも全体的に高い評価が得られた。一方で保護者の肯定的回答は指標を超えているが、大きくポイントを下げたものもあった。これは授業参観やフリー参観等の中止で児童の様子が伝わりにくかったものと考えられる。引き続き積極的な取組と情報の発信を継続し、学校教育活動への理解を深めていく。

市全体のアンケート結果の肯定回答との比較は、同程度かほぼ上回る結果となった。しかし、A9「児童は宇都宮の良さを知っている。」は保護者回答57.1%と市の平均を10%以上下回った。教職員は昨年度に比べ、10.5%上昇の86.7%、児童は6.8ポイント上昇の95.8%の結果を得ているので、今年度同様の校外学習の実施や宇都宮学の学習の充実を図ると共に、保護者への積極的な発信をしていきたい。

OA15「教職員は、不登校を生まないように、一人一人の児童生徒を大切に、児童生徒がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」において保護者の肯定回答が前年度89.8%から97.4%と大きく上昇した。教職員、児童の肯定回答もほぼ100%である。引き続き個と集団のそれぞれを意識した学級経営を行い、家庭への丁寧な対応を行っている。また、A17「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」も児童の肯定的回答がほぼ100%上昇、保護者回答もわずかではあるが上昇した。学校行事の運営や縦割り班での交流を充実させ、児童が積極的に活動に取り組んできた結果であると思われる。

OA21「学校は、『小中一貫・地域学校園』の取組を行っている。」では、児童の肯定回答が11.6%、保護者は9.8%昨年度を下回った。あいさつ運動や中学校訪問、情報交換等の取組を継続し、児童が主体的に関わることができる活動を工夫するとともに、各種たより等でも積極的に情報を発信し理解を促していきたい。

## 7 学校関係者評価

- ・コロナ禍で今までと同じ活動、結果が求められるのは酷ではあるが、子どもたちは楽しく過ごせていたようで安心した。
- ・PTA 活動は一部の人に負担がかかりすぎている。
- ・教員、児童の自己評価が相対的に高評価で、コロナ禍でも児童と教員が丁寧に向き合い指導した結果だと思う。引き続き児童の心身のケアをはじめ、きめ細やかに対応し、安定した学校運営をお願いしたい。また、創意工夫をし、地域の人々が学校へ足を運べるような交流機会の継続を願う。
- ・評価項目に関して取組が明確に記載され、次年度に向け、振り返りや継続的な改善策が示されている。PTA 活動を通して学校と連携を図りながら引き続き子どもたちの学習に対する環境や教員の職場環境の改善等につながる行動を心がけたい。
- ・コロナ禍でコミュニケーション不足なのか、教職員と保護者とのアンケート結果の差異がみられることが気になる。
- ・あいさつがよくできており、声をかけられて嬉しく思っている。
- ・特色ある教育活動が推進されている。
- ・保護者の肯定的回答が減っている項目が気になる。

## 8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

地域の方はコロナ禍での学校の教育活動の取組を評価している一方、教職員と保護者とのコミュニケーション不足の心配や、地域の人々が学校を訪問する機会の継続を願う声などもある。学校と家庭、地域の三者の繋がりを強固に保ち、連携・協力を促進するよう、必要な情報を積極的に発信し、より学校の取組への理解を深め、地域と共にある学校を目指す。

○小中間連携の機会や情報のやり取りを充実させ、一人一人のよさを生かす系統的な教育課程を編成していく。

○学習習慣の定着と学力の向上を目指し、家庭と連携を図り、基礎・基本の定着や主体的に学習に取り組む態度の向上を目指す。

・特色ある教育活動を推進し、自然に親しみ、相手を敬い、感謝する心や思いやりの心を育み、望ましい人間関係を醸成する。